

兵庫県下における *Neisseria gonorrhoeae* の薬剤感受性の調査

井川瑛美<sup>1</sup>、大澤佳代<sup>2</sup>、橘美希<sup>1</sup>、吉田弘之<sup>1</sup>

株式会社兵庫県臨床検査研究所<sup>1</sup>、神戸常盤大学保健科学部医療検査学科<sup>2</sup>

【はじめに】 *Neisseria gonorrhoeae* は、クラミジアと並んで頻度の高い性感染症である。近年では薬剤耐性 *Neisseria gonorrhoeae* が世界的に問題となっており、耐性菌の増加に伴い治療薬も変更を余儀なくされている。日本では淋菌の 80%がキノロン系抗菌薬に耐性であり、近年 CTRX の耐性菌も報告されるようになってきたため、感受性状況について調査を行った。

【方法】 2024 年 1 月～12 月に兵庫県下の医療機関で採取された尿、膣分泌物より分離された 59 株を対象に、CLSI 法に基づき PCG、CTRX、CPFX、AZM、TC、SPCM に対する MIC 値を E-test 法にて測定した。

【結果】 59 株のうち、PCG に耐性 5.1%、感性 94.9%、CTRX に耐性 0%、感性 100%、CPFX に耐性 88.1%、感性 11.9%、AZM に耐性 6.8%、感性 93.2%、TC に耐性 20.3%、感性 79.7%、SPCM に耐性 0%、感性 100%であった。

【考察】 CTRX や SPCM では全ての株において感性であり、AZM では 4 株で耐性であった。また、海外で報告されている CTRX と AZM の 2 剤耐性株は検出されなかった。AZM 耐性の株で CTRX の MIC 値には大きな変化が見られなかった。今後も引き続き耐性傾向について調査していく必要がある。